第 1 章

トピックス

トピック１　「いちご王国」プロモーションの展開
トピック２　「食べて強くなろうプロジェクト」の推進
トピック３　「スマート農業とちぎ」の展開による労働生産性の向上
トピック４　農業大学校におけるGLOBAL G.A.P.認証取得の取組

トピック１　「いちご王国」プロモーションの展開

本県が、いちごの生産量50年連続日本一となることが確実となり、名実ともに「いちご王国」となったことを契機に、本県のブランド価値向上や県産いちごの更なる発展を図るため、「いちご王国」プロモーションを展開し、「いちご王国・栃木の日」の制定や、県内各所でのイベントの開催や企業、団体等による協賛事業を展開しました。

１　「いちご王国」プロモーション推進委員会の開催

「いちご王国」プロモーションを多様な主体によるオール栃木で展開するため、平成29年11月２日に68の関係機関、団体、企業等で構成する推進委員会を設立しました。

また、12月21日には、第２回推進委員会を開催し、「平成30年１月15日からの集中プロモーションが盛大に展開され、「いちご王国・栃木県」が100年連続日本一となること」を祈念して、いちごで乾杯を行いました。

「いちご王国」のロゴマーク

「いちご王国」プロモーション推進委員会

２　「いちご王国・栃木の日」記念セレモニーの開催

いちごの生産量50年連続日本一を記念して、平成30年１月15日に県議会議事堂１階ロビーで「いちご王国・栃木の日」記念セレモニーを開催しました。

セレモニーに先立って開催された「いちごと花のファッションショー」では、宇都宮短期大学附属高校の生徒たちが、自らデザインしたオリジナルのドレスを披露し、いちごを使った華やかな演出で観客を魅了しました。

「いちごと花のファッションショー」

セレモニーでは、統計グラフ全国コンクール入選となった坂本真愛（まな）さんと坂本翔汰（しょうた）さんが、「いちご王国・栃木」の実力を紹介し、いちご研究所の石原所長が、栃木県のいちごの歴史などについて説明しました。

「いちご王国・栃木」の実力・いちごの歴史の紹介

続いて、「いちご王国」の国王である福田知事が、本県が「いちご王国」として次の50年、100年に渡って発展していくことを願い、１月15日を「いちご王国・栃木の日」として宣言しました。

福田国王による「いちご王国・栃木の日」の宣言

「いちご王国・栃木」国民の宣言

会場となった県庁では、15階をいちご階とし、エレベーターや展望ロビーでのいちごの装飾のほか、県庁を訪れた方々にいちごに親しんでいただき、ＳＮＳで情報発信するための撮影スポットを設置しました。

また、同時開催された「いちごづくしの県庁直売所」では、新鮮ないちごやケーキなどのいちご関連商品の販売が行われ、大勢の来場者で賑わいました。

いちごエレベーター

いちご階の撮影スポット

いちごづくしの県庁直売所

３　「いちご王国」太陽のスマイルマルシェの開催

集中プロモーションの一環として、「いちご王国」太陽のスマイルマルシェを１月27日に佐野プレミアムアウトレット、２月３日に宇都宮市バンバ市民広場、２月10日に那須ガーデンアウトレットで開催しました。

会場では、とちおとめとスカイベリーの販売のほか、食べ比べセットの配布やいちご栽培体験教室、品種当てクイズなどを開催し、多くの方に栃木のいちごの魅力をＰＲしました。

さらに、とちぎ花センターでは、２月10、11日に「花と苺のフェスティバル」を開催し、いちごをアレンジした寄せ植え体験教室などの花といちごのコラボ企画や、２月11日には、県有施設である「いちご情報館」を活用し、真岡市と連携した「いちごフェスタ」を開催するなど、県内各地域で「いちご王国」を集中的にプロモーションし、県民の皆さんや、本県を訪れる観光客の方々などに、いちごを味わい、楽しむ機会を提供しました。

また、臨時団体列車「いちご王国とちぎ号」の運行やバスツアーを開催し、「いちご王国」太陽のスマイルマルシェを楽しんでいただいたほか、いちご摘み取りを体験していただきました。

スマイルサイネージによる笑顔診断

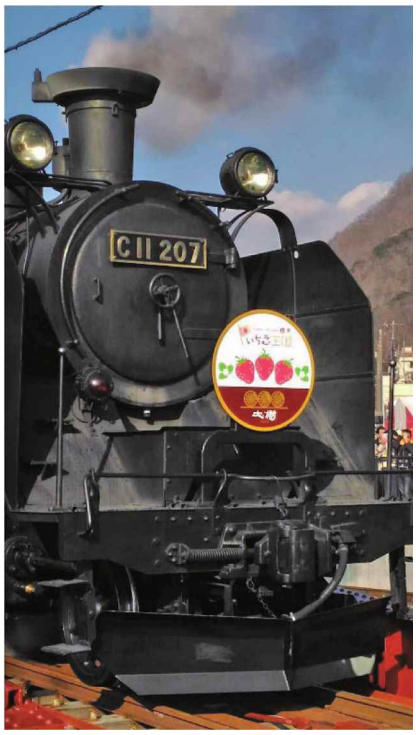
「いちご王国」太陽のスマイルマルシェ

いちご情報館での「いちごフェスタ」

４　「いちご王国」協賛イベントの開催

「いちご王国」プロモーションでは、農業関係者や商工・観光団体、行政など、多様な主体が、県内外各地域で様々なキャンペーンなどを展開できるよう広く協賛を募り、２月14日までに910件の協賛をいただきました。

１月15日から２月14日までの集中プロモーション期間に併せた、ホテル、カフェ等での特別メニューの提供や、観光いちご園でのスタンプラリーのほか、いちごＳＬの運行や、高速道路ＰＡ・ＳＡ、テーマパークにおけるいちごをテーマとしたイベントなど様々な協賛事業が展開されました。



いちごづくしのＳＬ大樹

協賛事業による「いちご王国」のＰＲ

5　SNS等を活用した情報発信

「いちご王国・栃木」の魅力やイベント情報、協賛事業の開催状況などをお知らせするため、特設サイトやフェイスブック、インスタグラムのアカウントを開設しました。

「いちご王国・栃木」ＳＮＳでの投稿

6　若手職員の自主的提案による取組

「いちご王国」プロモーションの展開では、若手職員自らが提案し、「ストロベリーキングダムジャンパー」（愛称：スキジャン）やいちご王国マンガ、職場内でのＰＲ資材の作成などに取り組み、「いちご王国」を盛り上げました。

「いちご王国」プロモーション用ジャンパー
（愛称：スキジャン）

若手職員作成の「いちご王国」マンガ

「いちご王国・栃木の日」宣言

全国で最も多く生産されている「とちおとめ」、大きくてきれいな「スカイベリー」、甘さに優れ県内でしか食べられない「とちひめ」、夏に楽しめる「なつおとめ」など、県内には多彩なオリジナル品種のいちごが栽培されています。その生産量は50年連続で日本一であり、名実ともに「いちご王国」です。

ここまで至ったのも、先人たちのたゆまぬ努力の賜であり、「いちご」は栃木県にとって今や「県の顔」であり、県民誰もが自慢でき、そして将来にわたって引き継ぐべき宝であります。

折しも、本年４月からのデスティネーションキャンペーンや 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、県外、海外からの誘客も見込まれる今、日本、そして世界に向けて“いちごと言えば栃木”、“栃木と言えばいちご”とイメージできるよう、栃木県をアピールしていく絶好の機会が訪れました。

そこで、いちごに対する県民の様々な思いを、いちごの生産振興や関連産業の活性化、そして栃木づくりに活かし、「いちご王国」として次の50年、100年にわたって発展していくことを願い、１月15日を「いちご王国・栃木の日」としてここに宣言します。

平成30年１月15日
いちご王国国王

「いちご王国・栃木」国民の宣言

「いちご王国」はこれからも一人ひとりの「笑顔つながる」王国として
さらなる繁栄を続けるため、「いちご王国・栃木」の国民は次のことを約束します。

1　わたしたちは、若者が夢をもって取り組めるいちごづくりを実現し、「いちご王国・栃木」のいちごを、今後50年、100年にわたって多くの人に選ばれるものとしていきます。

2　わたしたちは、“王国ならでは”の商品開発やサービス提供など、いちごを最大限に活かしたおもてなしによって、「いちご王国・栃木」の笑顔を広く発信していきます。

3　わたしたちは、いちごを活かした人づくりやまちづくりを進め、そこに暮らす誰もが、そしてそこを訪れる誰もが、いちごで幸せを共有できる「いちご王国・栃木」としていきます。

トピック２　「食べて強くなろうプロジェクト」の推進

子どもたちを対象に、体づくりと密接な関係がある「スポーツ」を通して親しみやすく食育を啓発する「食べて強くなろうプロジェクト」を推進しました。

1　食育キャプテンの委嘱

県内のスポーツチームに、「食育キャプテン」を委嘱しました。委嘱されたスポーツチームは、スポーツ教室や交流会など、子どもたちとふれあう場において、体づくりに欠かせない「食」の重要性や経験談などを直接子どもたちに伝える活動をしています。

スポーツチームには「委嘱状」と「キャプテンマーク（腕章）」、「タペストリー」を交付し、食育啓発活動時に活用されています。

委嘱状交付後、キャプテンマークを身につけ
プロジェクトのシンボルである「おにぎり」を手にするスポーツチームの選手のみなさん
左から
那須ブラーゼン（自転車競技）、H.C. 栃木日光アイスバックス（アイスホッケー）、
栃木サッカークラブ（サッカー）、（福田知事）、ホンダソフトボール部（ソフトボール）、
リンク栃木ブレックス（バスケットボール）、宇都宮ブリッツェン（自転車競技）、栃木ゴールデンブレーブス（野球）

委嘱状交付後、県産農産物を味わいながら懇談

食育キャプテンによる啓発活動
（栃木サッカークラブ）

２　スポーツ少年団等が行う指導者研修会への管理栄養士の派遣

スポーツを行う子どもの保護者や指導者が「食」の大切さを理解し、健全な食生活を実践する動機づけとするため、県内のスポーツ少年団、中学校の運動部活動、総合型地域スポーツクラブ等が主催する行事において、「スポーツと食に関する研修会」を開催しました。

研修会では、県内在住の「日本体育協会公認スポーツ栄養士」を講師に迎え、試合や練習のある日の食事の摂り方や、小中学生の発育に応じた食事の摂り方など、チームの課題や目的に沿った説明がされました。

受講者は、「改めてバランスの良い食事の大切さが分かった」「運動時の補食の摂り方に役立てたい」など、とても好評でした。また、受講者に「強くなるためのノート」を配布し、健全な食生活の実践に役立ててもらいました。

スポーツと食に関する研修会

※日本体育協会公認スポーツ栄養士とは・・・
スポーツ栄養学の知識を持った管理栄養士。
(公財)日本体育協会と(公社)日本栄養士会の実施する研修を受講後、認定試験に合格して得られる資格。
有資格者数：全国253名　うち栃木県内５名
(H29年10月現在)

３　覚えやすく継続できる普及啓発

親しみやすく食育を推進するため「食べて強くなろう」をキャッチフレーズに、子どもたちが実践すべきことを覚えやすい合い言葉**「お・に・ぎ・り」**としました。

また、食生活と運動の記録を１ヶ月間記録できる「強くなるためのノート」を作成しました。食育活動に参加した子どもたちに配布し、健全な食生活の実践と継続を促しました。

食べて強くなろう！の合い言葉

お：おはようしっかり朝ごはん
一日の中で、朝食を食べてからの活動時間が一番長いので、朝食がいちばん大切です。

に：にこにこなんでもおいしく食べて
いろいろな種類の食べ物を食べれば、しっかりした体をつくり、体調を整えられます。

ぎ：逆転（ぎゃくてん）できる底力（そこぢから）
ごはん（炭水化物）は体のエネルギー源。スタミナ切れにならないよう、しっかり食べましょう。

り：理想（りそう）のプレーでＶサイン
食の大切さについて、自分で考え、行動することで、理想に近づくようがんばりましょう。

食育活動の時に使うタペストリー
食育キャプテンのユニフォームを身につけ、おにぎりを手にする「とちまるくん」をプロジェクトのシンボルとした。

トピック３　「スマート農業とちぎ」の展開による労働生産性の向上

本県農業の飛躍的な生産性向上を図るため、農業と他産業が連携しやすい本県の環境を生かし、ＩＣＴやロボット技術などの先端技術を活用した農業の生産力向上や省力化等の取組を「スマート農業とちぎ」とし、生産技術の開発と普及を推進しています。

平成29年度は、土地利用型農業における先端技術の研修会や作業の効率化や労働費低減に資するシステムの導入に向けた調査検証、最新の技術を活用した施設園芸の取組状況・研究成果などの情報交換を実施しました。

１　土地利用型農業の取組

県では、土地利用型農業の大規模化を推進するため、低コスト・省力化に資する最先端技術の普及を推進しています。

とちぎスマート土地利用型農業研修会は、情報通信技術やロボット技術などの先端技術を活用した農業生産システムの実演や、農業者や関係者による情報交換を通じて、新技術に対する理解を深め、導入・定着を図るための取組です。

５月に行った研修会では、「農作業の自動化技術～最新技術による労働生産性の向上～」をテーマに、タブレット端末で操作する無人トラクターによる耕運や代かき、スマホで簡単に水管理ができるほ場水管理システムの実演を行いました。多くの農業者が参加し、今後の技術導入に前向きな声が聞かれました。

熱心に説明を聞く多くの参加者

タブレット端末へほ場データを入力

無人でほ場まで走行するトラクター

無人で３台協調作業を行うトラクター

２　スーパー大区画実証水田における取組

下野市磯部地内において実施している「スーパー大区画導入実証事業」の実証水田で、大区画等の新たな工法導入による農作業の効率化調査と併せて、低コスト化栽培技術の導入に向けた検討や自動給水栓による水管理労力の節減調査を行っています。

平成29年度は、作業の効率化に関する調査のほか、苗箱を減らす高密度播種苗移植栽培、代かきや移植を必要としない乾田直播栽培、無人で作業のできるロボットトラクターによる代かき及びスマートフォンなどの携帯端末で水田の水管理を遠隔操作できるシステムの導入に向けた調査検証を行いました。

高密度播種苗移植栽培技術

乾田直播種栽培技術

ロボットトラクターによる代かき

ＩＣＴを活用した水管理システム

３　　次世代型施設園芸の取組

施設園芸の分野では、最新の技術を活用した次世代型の施設園芸モデルを育成するため、農業者や農業団体、企業関係者、研究者等を対象に「栃木県次世代園芸モデル研究会」を設置し、本県施設園芸のさらなる発展を図るための様々な取組を行っています。

平成29年度は、セミナーやいちご・トマトの分科会、先進地視察研修等を開催し、国内における施設園芸の取組状況や最新の研究成果、関係企業によるＩＣＴなどを活用した最新技術についての情報交換を実施しました。

栃木県次世代型施設園芸セミナー

先進地視察研修

トピック４　農業大学校におけるGLOBAL G.A.P.認証取得の取組

県農業大学校では、国際的な視野を持った次世代の農業人材を育成するため、「にっこり」を含むなし（露地栽培47a）において、農産物取引の国際的な要件であるGLOBAL G.A.P.の認証取得に取り組んだ結果、平成29年11月24日に認証されました。農業大学校としての取得は全国３例目であり、なしでは全国唯一の取得（認証時）となりました。

今後は、なしを含む全ての作目の授業において、ＧＡＰの取組を必修とし、人材育成に活かして行く予定です。

GLOBAL G.A.P. の認証を取得したなし園

なしの出荷調整実習

調整施設は衛生区域を線で区分け

燃料置場に防油堤を設置

ＧＡＰの取組を学ぶ学生

GLOBAL G.A.P. 認証書受領式